

## 沖縄振興・産業研究

### 《講義内容》

これまでアクション・リサーチとして実施、展開してきた「島おこし研究交流」、「与那国開港運動」、「沖縄・中国航路開設運動」をケースにして、振興・開発とは何か、また望ましい地域像について、本質的、具体的に理解を深める。これらのケースを通して地域の振興の方法、アクション・リサーチを実践的に体得させる。このことを踏まえて、学生自身に地域振興のケースを設定させ、前もって準備してある県内の市町村要覧、データ、マップ類を提供して机上のケース・スタディーを行わせる。これをレポートにまとめて提出させると同時に、発表させてプレゼンテーションの技術を鍛える。また、地域振興の中核となる(地域)産業の位置付けについて、特に沖縄の特色、すなわち島嶼性、辺境・僻地、国境、ニッチ性をどのように地域振興のメリットとして発揮させるか、前述したケース・スタディーを通して具体的に産業と地域振興の関係(構造)を理解させる。

### 《授業の流れ》

- 1) 沖縄振興計画の第1、2、3次について、そのポイント、特色、課題について概観する。
- 2) (日本本土の)全国総合計画について、1)との比較をし、なぜ相違点が生ずるかを解説する。このことによって沖縄と本土との振興の特性についての差異をマクロな視点から明らかにする。
- 3) レポートとして地域振興のケース・スタディーを作成させる旨、受講生に伝え、このことを常に考えながら主体的に受講させる。
- 4) また担当者がアクション・リサーチという形で地域振興に関わってきた沖縄でのケース(与那国開港運動など)について興味を持たせるように工夫をし、解説し、ケースを通して地域住民にとって望ましい振興とは、開発とは何かをミクロ的、具体的に明らかにする。
- 5) 一方、担当者が本土で関わってきた地域振興のケースについても解説し、4)との比較で地域のバック・グラウンドの相違によって望ましい振興、開発がどう異なるかを明らかにすることを通して、その本質にせまってみたい。
- 6) 受講生にレポート・テーマ(市町村、島嶼別あるいは振興テーマ別)を発表させ、コメントをすると同時にレポート作成に必要なマップ、資料類を提供する。
- 7) 振興計画立案の一般論を解説すると同時にこれを踏まえて受講生のレポート・テーマについての計画立案のアドバイスをする。
- 8) 各受講生のレポートを発表させ、それについてコメントし、加筆・修正をさせ最終提出とする。
- 9) 一方、振興計画、また各自提出したレポートの中、その中核となる産業、さらに企業の位置づけを明らかにさせ、両者の関係、戦略についての理解を深める。
- 10) 最近の地域振興、特に自立論での起業、ベンチャーの重要性を解説し、後期の「ベンチャー論」へ続ける。